

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	66-0110
園名	むさしの保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

環境

<テーマの設定理由>

広々とした当園の保育室を活かし「環境」をテーマとして設定。
環境と言っても様々な環境が子どもたちの周りにはあり、子どもたちの成長に欠かせないものである。
歩行ができるようになり探索活動を増えてきた子どもたちは、色々な物に興味や関心を示している姿がみられる。運動機能面の成長を促しながら、子ども達自身が主体性を持ち環境に触れていけるようにするため。

2. 活動スケジュール

2025年
10月～3月

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

・活動のために準備した素材や道具、環境の設定

プレイマット 感触マット マット カラーボール 電子黒板 など

保育室の中で組み合わせ、様々な運動遊びができる環境を作った。
また、懇談会の中では電子黒板を使って、保護者にすくわくプロジェクトの活動内容を共有していった。

・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり

○運動遊び

高さのあるプレイマットに子どもたちも興味津々で、跨ってみたり上ってみたりと少しスリルを味わいながら「次はこんなことやってみよう」と探求心を高めながら遊ぶ子どもが多かった。

保育者が乗り物に見立てると、子ども達も次々に座りに来て一緒にバスごっこを楽しんだり、組み合わせて凸凹道やトンネルを作ると、這い這いで進んで繰り返し遊び身体を動かして遊ぶことを楽しめていた。

感触マットも、色に興味を持ってのぞき込んだり、手や足で押して液体が動いたり色が混ざることを見出し、保育者に知らせたり、声を出して驚く様子もあった。また、月齢の低い子ども興味を示し、積極的に触れて遊ぶ姿があった。

○ボールプール

プレイマットを組み合わせて室内にコーナーを作る。

その中にカラーボールを入れてボールプールを設置した。中に入って感触を楽しんだり、ボールを投げて出し入れを繰り返して遊ぶ様子があった。

常時設置することで「ないないするよ」と声をかけると、コーナーの中へボールを投げ入れたり、お片付けの仕方も意識付いてきている。

壁にバネをつけてボールを落とす場所を作ると、夢中になってぽつんと落としたり、色々な大きさのボールが入るかを試して集中して遊ぶ様子が見られた。

4. 振り返り

<振り返りによって得た職員の気づき>

0歳児15名。月齢の差もあるので、2グループに分かれた活動を意識してきた。

戸外だけでなく、室内でも十分に身体を動かして遊ぶことができる環境づくりをクラスで話し合い、プレイコーナーや運動遊びを取り入れてきた。

遊びを通して子ども同士の関りや模倣も多く見られた。

発達に合った環境を作ることで、のびのびと遊びこむ姿が出てきて、這い這いの動きを遊びの中でたくさん促すことも出来た。

また、成長とともに、「これはどうなるかな？」と動きや遊び方を自分で考える姿も見られるようになった。その姿を見ながら、子どもたちの興味が今どこにあるのか、その部分を更に引き出すにはどういった環境が必要かを考えさせられるきっかけとなっていた。

また、土曜保育や延長保育でも使うクラスなので、担任以外の職員にもアイデアを募り、引き続き様々な環境設定を試していきたい。

プレイマットを使ってボールプール♪



プレイマットを枠組みにしてボールプールをしました。既存であったマットと組み合わせ、階段を作ったり、トンネルを作り、全身を使って遊べる場所を作りました！

ボールを中に入れるとボールを握ったり、投げたり、転がしたりする姿が見られました。

他にもプレイマットにまたがってみたり…

階段を降りてみようとする姿も見られました。

1人で身体の向きをかえて足から降りていました。



遊んでいる子どもたちの姿から今の発達を踏まえて、どんな事が出来るようになってきているのか、どの様な遊びに興味を示していたのかななどを職員で共有し、今後どういった環境を作っていけるかを話し合いながら進めていきました。



運動遊びでたくさん身体を動かしました。

フープとマットでトンネルを作りました。周りの景色が見えるので安心して這い這いで進んでくれます。

マットに跨り電車ごっこ！お尻で器用に前後に移動してフワフワな感触を楽しんでいます。

一本橋にするとマットの上に登る子どもたち。ちょっとしたスリルを味わっています。



凸凹の山に挑戦！不安定なマットもバランスを取りながら楽しんでいます。

しばらく遊んでいると、車を上から転がして追いかける遊びにも発展していました。



マットで作ったとても低いトンネルです。

上に乗ろうとしていましたが、保育者が下をぐるんだよ、と遊び方を見せると、どんどん挑戦しにきました。狭い場所も大好きです。



いっぽんばしを渡ろう！



プレイマットを組み合わせてコーナーを作った際、子どもたちが自然とマットに跨ってびよんびよんジャンプしたり、跨ったまま進んで遊んでいる姿があったので、いっぽん橋を作ってみました。

まずは保育者が跨いでいっぽん橋を渡ると早速興味津々の子ども達！
保育者の後ろにどンドン列が出来て真似をしながら手足を使って前に進んで楽しんでます。

しばらくすると、自分で渡り方を色々試し始める子も。
少し難易度が上がってバランスを取りながらマットの上を這い這いで進んでいました。



活動内容の共有

懇談会の中では、すくわくプロジェクトについて保護者の方に説明をしました。
電子黒板を使い、取り組みの内容や様子を写真でも伝えることで、保護者からも分かりやすかったという感想をいただきました。

